

令和二年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ローカルビジネス創出に係る拠点整備事業
事業主体 (連絡先)	信州移住計画 代表 辰巳和生 090-5992-2206
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,640,160 円 (うち支援金: 2,709,000 円)

事業内容

「ローカルビジネスの創出」地域起業の場を事業の中核とし、民泊事業、ローカル公民館を元気づくり支援金事業として実施。

- ・旅館業営業許可4月に取得
- ・木曽路わたし市など坂勘を解放するイベントの開催
- ・シェアメイトをはじめとした地域人材がローカルビジネスに着手(珈琲焙煎/休耕地シェアファーム化/映像コンテンツの制作など)



【木曽路わたし市の様子】

【目標・ねらい】

「ローカルビジネスの創出」をテーマとし、移住者の生業創出及び収入確保の難しさを課題とし、その解決を坂勘を拠点に実証する。民泊/ローカル公民館の機能実装を拡充し「地域のいばしょ」「地域接点の場」となる

事業効果

①地域への入口となり関係性の深度を深める機能として旅館業営業許可を取得し、宿泊事業を開始。コロナ禍となり想定集客には至らなかったものの、全国から人の流動が生まれた。成果:7月~12月 合計45名宿泊 (@3,000円×45名=135,000円)

②木曽路エリアの暮らしの道具を扱う商店を一斉にオープンする「木曽路わたし市」に参画し(毎月第4日曜日開催)、坂勘を解放。シェアメイトを含む出店者が商品を販売し、地域内外の人が多く訪れた。地域の方からは坂勘の昔話を聞かせていただいたり、地域接点をより深めた。コロナによりシェアごはんなどの企画開催は断念した。

③シェアメイトや木曽路わたし市出店者などが坂勘をフィールドに様々な取り組みの展開を開始した。それぞれのプランに伴走も行き、珈琲焙煎/休耕地シェアファーム化/映像コンテンツの制作などが生まれ、今後も拡充していくと予想される。

自己評価【A】

【理由】

- ・旅館業取得を行い、地域への入口となる宿泊業の仕組みを確立することができた
- ・コロナ禍のおいても地域内外の接点と、地域の活動拠点としての機能を実装できた

今後の取り組み

2021年度は、坂勘の機能性の根幹である「地域のいばしょ」「地域接点の場」となれるよう、より一層の拡充を図ります。その為に「新しい生活様式」を意識しながら、未来的な地域間往来の自由化のタイミングに向けて、「圧倒的な流動」をこれまでの成果を基盤に広げていきたいと思っています。「あたりまえに流動と交流と実践が生まれる地域」を、塩尻市の産業なき宿場町で生み出し、文化となる未来を目指します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある